

# 一般質問通告書一覧

平成27年度新城市女性議会  
平成27年7月31日

新城市

## 平成27年度新城市女性議会一般質問通告者順序表

- 1 野澤 敦子 議員（通告時間15分）
  - ・ 空き家バンクの活用と移住支援について
- 2 生田 智美 議員（通告時間15分）
  - ・ 新城市の農業政策について
- 3 原田 苑子 議員（通告時間15分）
  - ・ 新城市の活性化と住み良いまちづくりについて
- 4 峰野 恵子 議員（通告時間15分）
  - ・ きれいな街・新城について
- 5 竹下 真穂 議員（通告時間15分）
  - ・ 歴史のまち新城のアピールについて
- 6 野澤 美紀 議員（通告時間15分）
  - ・ 共育事業について
- 7 原田 真弓 議員（通告時間15分）
  - ・ 30代、40代のまちづくりへの参加について
- 8 どりあ 山崎ランサム 議員（通告時間15分）
  - ・ 街に「昭和街」を作り、活性化するアイデアについて
- 9 片桐 美穂 議員（通告時間15分）
  - ・ 子育て情報の提供について
- 10 伊東 愛子 議員（通告時間15分）
  - ・ 「食」についての視点から、大規模地震等発災時の新城市の防災・減災対策について

# 女性議会一般質問通告書

氏名 野澤 敦子

テーマ	空き家バンクの活用と移住支援について
現状・課題 提案事項	<p>私は2年前に家族で新城市作手地区に移住してきた移住者です。</p> <p>新城市は、豊かな自然に囲まれ、人もおだやかで、子どもが育つには絶好の場所であると思っています。しかし、特に作手地区や鳳来地区などは人口の減少が進み、子どもの数もどんどん減っているのが現状だと感じています。</p> <p>また、私の働く福祉の現場や、病院の看護師などは常に人手不足の状態です。</p> <p>今、世間では移住がちょっとしたブームになっていると感じています。移住に関する雑誌も多数ありますし、インターネットで移住と検索するとおびただしい数の情報が目に飛び込んできます。</p> <p>中には自治体が積極的に移住者を募るため、様々な事業を展開しています。新城市においても、もっと積極的に移住者を募ってはどうかと考えます。</p>
質問	<p>(1) 新城市においても空き家バンク（空き家情報登録制度）が創設されましたが、現状の登録件数が3件です。</p> <p>この制度をもっと活用するためのPRなどはどのように考えておられますか？</p> <p>(2) 新城市も会員になっている「ニッポン移住・交流ナビ JOIN」には先進的な空き家バンクの事例なども取り上げられていますが、他の自治体のように自治体の特色を生かした取り組みについてどのように考えられておられますか？</p> <p>(3) 医療・福祉の人材不足が新城市においても深刻です。</p> <p>島根県浜田市が今年度から、県外のひとり親家庭移住支援事業を始めました。こういった取り組みによって、市内の医療・福祉の人材不足は解消すると考えられますし、人口も増えるのではないかと思います。このような移住の対象者を絞り、積極的にPRをすることは新城市のPRにもつながるのではと思いますが、こういった事業についてどのように考えておられますか？</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 生田 智美

テーマ	新城市の農業政策について
現状・課題 提案事項	<p>新城市は平成 23 年度に市役所が中心となり、農業改良普及課、農政課、愛知東農協、農林業公社しんしろが集まり、新規参入者への就農支援のあり方を検討し関係機関の役割分担を決め窓口となり就農相談を受け就農希望地区の状況、農地、住居を紹介、個別面談で家族構成、資金や就農意欲等も審査、研修制度も確立され県内外の就農相談会に積極的に参加し新規就農者を募集しています。平成 24 年度には、平成 26 年度に作手地区での夏秋トマト経営に向け研修が開始。現在作手地区では市外から移住し就農者が 7 名います。その一方、課題もあります。これ以上トマト農家を増やすと現在の撰果場では小規模で回らなくなると声も聞こえてきます。しかし、新規就農者に優しいこの制度は全国をみても稀で魅力的です。人口減少の問題を抱える新城市の強みにもなる政策です。</p> <p>そうした中で、女性への配慮は置き去りにされてきたように思います。男性は研修先や消防団、地域のお祭り等で地域との関わりが早い段階で出てきますが、女性は子供がいればこども園や学校でお母さんとの交流も生まれます。しかし、そうでない場合は全く地域との関わりがないまま知らない土地で不安なまま農業の世界に入って行く訳です。</p> <p>そんなことも踏まえ、この度平成 27 年 4 月 9 日に第 1 回目の作手農業女子会を開催。8 月 1 日には第 3 回目の会を開催の予定です。現在約 8 名がメンバー登録して頂いております。目的は、笑顔で楽しくワクワクの新城を女性農業者から発信する。まずは交流する事。新規就農者の奥さんが地域にとけ込める場になればと考えています。</p> <p>もう一つ、地域のお店さんにもサポーターとして仲間に入ってもらい、農産物を使って地産地消の取り組みも進行しています。この役割を通して地域を広く県内外へと PR する。観光農園、特産品開発等 6 次産業化を視野に入れ活動していきたいと考えます。</p> <p>このように、農業政策を強みに対策を打ち出せば人口減少問題、担い手不足問題、荒廃農地問題、空き家問題、雇用問題解消の糸口になるのではないかと考えます。</p> <p>そこで、以下 4 点について質問いたします。</p>

質 問	<p>(1) 新城市が掲げる農業政策の将来ビジョンについてお伺いします。</p> <p>(2) 新城市が推進してきた新規就農者支援の制度をよりステップアップさせ、地域活性化に繋げる政策が必要と考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>(3) 撰果場の問題を、市と農協で解決してゆくお考えはありますか。撰果に拘らず、加工場などの導入も含めてお伺いします。 また現在、作手菅守地区で雇用推進事業として特産品開発をしています。施設の有効活用を市が今後もサポートしていただけるでしょうか。</p> <p>(4) 作手農業女子「なんのえん」を今後新城農業女子に移行させていくために市が支援していただくことは出来るでしょうか。</p>
-----	---

# 女性議会一般質問通告書

氏名 原田 苑子

テーマ	新城市の活性化と住み良いまちづくりについて
現状・課題 提案事項	<p>新城市は愛知県内市唯一の消滅可能性都市（日本創成会議・人口減少問題検討分科会推計）</p> <p>そのために・・・</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市民一人ひとりが状況を把握し、理解する必要がある。</li><li>・住む人たちが「この町に住んでよかった」と思えるような町づくりを行っていく。</li></ul> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・住んでいる人が困ったとき、納得のいく結論を出すことができる。</li><li>・公共交通機関の運行回数、時間の見直し。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然や歴史の溢れる新城市の特色を生かし、落ち着いた場所で子育てをしたい、自然の中でのんびり暮らしたいと考える人たちに住んでもらえるような町づくりをする。</li></ul>
質問	<p>(1) 自然や歴史の溢れる市の特色を生かした市の活性化についてのお考えをお伺いします。また、まちづくりの最終目標は何か伺います。</p> <p>新城市の活性化のために、市としては今度どのような活動をしていくつもりであるのか。</p> <p>(2) 新庁舎建設のために、市民体育館をなくしたが、それに代わるような屋内施設の建設予定はありませんか。より広い屋内施設を建設することができれば小・中・高等学校の部活動の大会などの開催に利用し、人を呼び込むことが出来ると考えます。</p> <p>(3) 未満児保育を利用し働きたいニーズに応えることは子育てしやすいまちづくりには大切だと考えます。現在の需要に応えられているのか伺います。</p> <p>(4) 市外から人が来るのだけでなく、住んでもらえるような町にすることが市の活性化には不可欠です。市ではどのような活動を行っていくのかお伺いします。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 峰野 恵子

テーマ	きれいな街・新城について
現状・課題 提案事項	<p>私は旧鳳来に住んで36年になります。自然に囲まれて子育てをし、無事終了しました。多少の変化はあるものの、のんびりした田舎の様子を残している地元が大好きです。</p> <p>忙しかった時には見られなかった事が、生活速度がゆるやかになった今、自分の周りが少し気になる様になりました。</p> <p>仕事柄、車での移動が多く、新城市の町中を抜けて豊橋方面へ向かう時、道路脇の雑草が車に当たるほど伸びていて、とても危なく、見た目にも良くない所がたくさんあることに気が付きました。</p> <p>桜淵公園の周辺は、春から秋には観光名所として人々も数多く訪れ、イベントもたくさん行われるにも関わらず、桜並木の下は雑草が伸び放題です。</p> <p>またバイパス道路では新城設楽建設事務所によって年2回の清掃があるようですが、1番除草したい時期からずれていたりすると、放置された雑草は120cm以上にもなったりしています。草の合間から黄色い通学帽を見つけた時には、防犯上にも良くないと実感しました。出入りの車の安全のために、接している店の方が自主的に草刈をされている箇所もいくつかあり、歯がゆい思いに駆られました。</p> <p>道路の管理は私達にはわからない管轄があり、市が関わりにくい事もあるかも知れません。しかし、責任の所在とは関係なく、市民が“気持ちよく利用”できて、新城を訪れる人に“また来たい！”と思わせる街になったらいいなと思います。</p>

<p>質 問</p>	<p>そこで「きれいな街・新城」とするために、5つの提案を考えましたので、質問いたします。</p> <p>(1) 自主的に市内の美化に協力した団体・個人・地区を、広報やティーズなどで紹介することは出来ないでしょうか。</p> <p>(2) その様な団体・個人・地区には、市内の店で使える商品券などを補助することは出来ないでしょうか。</p> <p>(3) 地元で行っている「秋のみちづくり」について実施の時期を地元と調整して見直すことは出来ないでしょうか。</p> <p>(4) 市内の道路状態を管轄部署に伝え、早期に実施するように促すことは出来ないでしょうか。</p> <p>(5) 景観を見守り、発見するパトロール隊の様な組織はありますか。また、なければそういった組織をつくることは出来ないでしょうか。</p> <p>豊橋方面からは50分、浜松からは30分、来春に新東名が開通すれば名古屋からも40分で新城に入れるということは、中高年以上のドライバーにとっては絶好の場所になると思います。</p> <p>車を走らせて新城に入った途端、手入れの行き届いた安全な道路と、美しい自然を満喫できれば、最高の“癒し”を提供できると確信します。</p>
------------	--



# 女性議会一般質問通告書

氏名 竹下 真穂

テーマ	歴史のまち 新城のアピールについて
現状・課題 提案事項	<p>私は、小さい頃から歴史が好きです。それは昔から行われている「設楽原決戦場まつり」に積極的に参加してきたからです。その元となった「長篠の合戦」は、戦国時代の3大合戦に入るほどのとても大きな戦いです。新城市には、教科書にも載っている、誰でも一度は聞いたことのある大きな合戦の史跡がしっかり残っています。設楽原にある馬防柵、長篠城、お墓や陣地など見どころ満載です。</p> <p>しかし実際のところ「長篠合戦」という言葉だけ知っていて、その戦いの舞台となった地がどこであるかを知っている人はぐっと減ってくると思います。もっと観光客が訪れてもいいはずの新城市なのに、何かイベントがある時以外は、訪れる人は少ないです。</p> <p>その一方、同じ3大合戦の1つである関ヶ原では観光客の数も多く知名度も高いのです。私はこの違いは積極的なアピールの差にあると考えました。関ヶ原では、積極的な史跡めぐりコースの設置と案内・ゲームとのコラボレーション、全国からの参加者で行う大規模なイベントなど様々な工夫を凝らしています。</p> <p>その点新城市は「決戦場まつり」や「のぼりまつり」などの大きなイベントをやっていますが、どれも新城市民止まりで、他県の人々の興味を引くまでのインパクトや交通のアクセス状況が良くないと思われます。</p> <p>そこで来年開通する新東名インターチェンジをきっかけに、もっと新城に魅力を持たせてまた来たいなと思える街にしていったら、今よりもっとにぎやかな楽しい街になると思います。そこで、以下のことについて質問します。</p>
質問	<p>(1) 「長篠設楽原パーキングエリア」では、その名の通りにここでしか買えない長篠設楽原パーキングエリアならではの土産物や店の中に合戦に関する展示品のコーナーを設ければ新城市をアピールできると思いますがいかがですか。</p> <p>(2) 関ヶ原のように全国から人を募集して、他県の人とも深く交流できるようなもっと大規模なイベントを行うのはいかがですか。</p> <p>(3) いつでも史跡巡りができるように、分かりやすい案内の地図や史跡の整備をもっと積極的にするのはいかがですか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 野澤 美紀

テーマ	共育事業について
現状・課題 提案事項	<p>朝夕の登下校時、子ども達から「あいさつ」があまり聞こえてきません。あいさつはコミュニケーションをはかる1つのきっかけになると考えられます。そんなきっかけ作りが少ないのが当たり前からか子ども達の会話力や伝える力不足さを感じられます。</p> <p>あいさつが少なければ、例えば登下校時の地域の方とも知り合うきっかけ作りが出来ない為「あの子どもはどこの子だん？」と大人達も声をかけそびれ、一方子どもたちも「知らない人だから・・・」となり、ますます地域での見守りは低下していくように思います。</p> <p>さて、そこでこうした気づきに適した策が新城市にはあるんです。それが“新城共育12”です。スローガンにも「ともにあいさつあいことば」とあります。</p> <p>地域みんなで子どもを育て、さらに大人も育つ環境を作り上げようという素晴らしい取組がありますが、もったいないことに、私の周りで、この「共育」について聞いてみたところ、共育という言葉を知っている人は少なく、内容まで知っている人となるとさらに少ないように感じました。</p> <p>それならばこのせっかくの取り組みを学校のみならず、もっと地域でも“あいことば”になるよう働きかけていく必要があるのではないかと思います。</p>
質問	<p>そこで以下の3点について質問をいたします。</p> <p>(1) 新城市として、このような“共育”についての現状をどのよう にお考えでしょうか。</p> <p>(2) 子どもたちから「共育」について意見を聞く場、例えばワーク ショップなどを行い、子どもたちの意見を反映させた形で次の 共育事業を行うことは出来ないでしょうか。</p> <p>(3) また子どもたちの「共育」に関する考えを学校や市だけでなく、 行政区やPTAなどとも共有できる仕組みをつくることは出 来ないでしょうか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 原田 真弓

テーマ	30代、40代のまちづくりへの参加について
現状・課題 提案事項	<p>これからの市を担う、一番近い世代の30代40代の人達がやらなければならない事を地域の中でこなしている状況で新しいことを起こすことは、時間的にも立場的にも難しい状況にあります。</p> <p>若者議会などの前にその世代の人達の声が届けるのが先だと思いう反面、その世代の人達は仕事、子育てなどで忙しいので、集まりなどがあっても出席は、ままなりません。</p> <p>また、地域の行事などにも中心に関わらなければならないにもかかわらず、他地域からの編入者が地域に馴染むことは容易ではありません。そこで以下4点について質問いたします。</p>
質問	<p>(1) 家庭でも、社会でも忙しい30代、40代の住民意識、住民ニーズは、直面するまちづくりの課題の縮図でもあります。市ではどのように声を聴き、政策に生かしていますか。</p> <p>(2) 外から転入されて来た人が、いち早く地域に馴染み地域づくりに参加していただくためには何が必要と考えますか。</p> <p>(3) 地域には、永く受け継がれてきた様々な行事がありますが、忙しい世代には負担となる一面もあります。30代、40代世代が住みやすい地域とするために市として出来ることはありませんか。</p> <p>(4) 忙しい世代の声を反映するために、市の市民会議などにSNSを活用することは出来ないでしょうか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 どりあ 山崎ランサム

テーマ	街に「昭和街」を作り、活性化するアイデアについて
現状・課題 提案事項	<p>新城市の旧道沿いの町並みの「昭和らしさ」は、保存するに値するものであると、特に外国人として町並みを見る時に思います。今では「ダサイ」とされている町並みですが、平成らしい、デザイン性に欠けている四角い建物が増えていく中、昭和時代の建物を保存することができれば、20年先には他に類を見ない、ステキな「生きた博物館」に生まれ変わることができます。</p> <p>一口に昭和といっても、戦前、戦争直後、経済成長期、バブル最盛期と、様々な「昭和」があります。町並みに60年以上の歴史が現れるところこそ昭和の魅力があります。</p> <p>この町並みを保存して活用するためには、「平成化調整区域」「昭和街都市計画特別区域」を作る必要があると思います。最小限残したい場所は東新町の交差点から橋向の交差点までの旧道沿いの地域ですが、平井の交差点から、新城駅前銀座、そして文化会館と市役所まで広げることができたら最も理想的だと思います。</p> <p>「生きた博物館」ができると、旅行客のために、様々な分野の懐かしいお店やポケットパークを作ることができ、また、何よりも、様々な形でいろいろな人に仕事をする機会が与えられます。</p> <p>この特別区域にある建物に関しては、外見の昭和らしさを揃えるために、持ち主に与えられる補助金制度を作ることが有効的だと思われます。</p> <p>このビジョンを実現するには長期的計画になるという理解が不可欠です。長期的にこれを運営管理する組織が必要になります。少しずつ進めることによって、新城が変わっていきます。また、市の予算を使うだけでなく、様々なファンディングのアイデアがあってもいいと思います。</p>
質問	<p>(1) 「昭和街」をつくることによる市の活性化策に対する考えをお伺いします。</p> <p>(2) 昭和の建造物を生かした景観保全の特別区域を設定することについての考えをお伺いします。</p> <p>(3) 「昭和街」の可能性の展望についての考えをお伺いします。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 片桐 美穂

<p>テーマ</p>	<p>子育て情報の提供について</p>
<p>現状・課題 提案事項</p>	<p>新城市では、子育ての情報を得る方法がとても少ないです。例えば、インターネットで「新城市 子育て」と検索しても分かりやすいホームページがありません。広報にも特に子育て専用のページなどありません。</p> <p>他の都道府県から来て、新城市の子育てや出産について自分の欲しい情報を見つけにくいです。</p> <p>特に、インターネットでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間以内（20～30km）の産婦人科情報</li> <li>・ 子連れ歓迎の食事屋さん（座敷、子ども椅子、子ども用食器あり等）</li> <li>・ 子供のための病院情報</li> <li>・ 子育てサークル、児童館、公園情報</li> <li>・ イベント、こども園情報</li> </ul> <p>広報では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今月のイベント、お知らせ、手当て</li> <li>・ 今月の教育、相談など子育てに関する記事をまとめて載せる。</li> </ul> <p>等の情報が得られますと、とても助かります。</p> <p>子どもたちや、子育てをしている方たち、これから子育てをしていく方たちにとって住みたいまち（住みやすいまち）、子育てしやすいまち、優しいまちにするために、子育てに関する情報提供について、以下3点を質問いたします。</p>
<p>質問</p>	<p>（1）子育て情報専用のホームページを作成することはできないでしょうか。</p> <p>（2）インターネットが苦手な方のために、広報に子育て専用のページを設けることはできないでしょうか。</p> <p>（3）民間団体の力をお借りするお考えはありませんか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 伊東 愛子

テーマ	「食」についての視点から、 大規模地震等発災時の新城市の防災・減災対策について
現状・課題 提案事項	大規模地震等の発災時、私たちは避難所生活などの通常とは違う生活を余儀なくされます。また、近隣市町村の支援は期待できず、国や県の支援もあまり十分でない現実も想定されます。そのような状況下での「食」の問題について、疑問点と提案事項を述べたいと思います。
質 問	(1) 備蓄食料は、現在、想定避難者の何日分が保管されていますか。 また、備蓄食料がなくなった場合の調達方法と管理部署、費用の負担者等は、どこで、だれが、いつまでか、質問します。 (2) 調理のできない自宅生活者のヘルパー等による支援体制は、発災後も途切れなく続くのでしょうか。食糧調達の一つの選択肢として、近隣住民が、避難所からもらってくることは可能でしょうか。 (3) 食物アレルギーを持つ親子や大人のための避難所設置、乳幼児を持つ母子のための避難所設置をぜひお願いしたいのですが、いかがでしょうか。 (4) 少子高齢化・マンパワー減少社会において、発災時の、住民による見守り支援体制の確立と住民同士の共助力を高め発災時の復興力の向上を目的に、炊き出し技術の普及を、新城市の課題とし、地域自治区単位で取り組むことを提案しますが、いかがでしょうか。